

2016 年 5 月 15 日「私が持つべき心情と行動」

『真父母經』

第七篇 真の父母様の受難路程と勝利

第三章 ダンベリー刑務所での受難と真の父母様の勝利

第三節 ダンベリー刑務所での受難と獄中生活

7.アメリカの監獄に行つて愛そうという心をもった人が、監獄にいる一人の人を愛すれば、それはアメリカの国民全体を愛したという条件的立場に立つのです。その場には天地が同伴します。ですから、私はアメリカを愛したというのです。誰よりも愛しました。誰もが嫌だと思ふ監獄の囚人たちを、私は誰よりも愛したのです。そのような愛の表題を掲げて出てきて叫んでも、それに対して、「違ふ」と言うことはできません。そこにいた人々が証するのです。

差し入れをもらつて、良いものがあれば、私のところに持ってきてくれようとするのです。そのような監獄生活を送るのは簡単なことではありません。人のために尽くしてあげなければなりません。ために生きるどころから新しいものが創造されるのです。そして、ために生きる人が、その創造されたものを所有するのです。天理原則がそのようになっています。ですから、神様の創造は、ために生きる心情圏の園から始まったというのです。

9.私がダンベリーから出たあと、そこの責任者が、「一人の影響がここまで大きいとは思いませんでした」と語っていたという話を聞きました。お父様が監獄にいる間、酒を飲んでいた者たちは、酒を飲むとき陰に隠れて飲み、大麻のようなものを吸うときもお父様の目に映るかと思ひ、森の中に入つて隠れて吸ひ、けんかをしていた、お父様が来るとやめたのです。なぜ囚人たちが、それほどおとなしくなったのか分からないというのです。

ところが、お父様が出ていって三日もたたないうちに、昔のとおりに戻ってしまったというのです。それを見て、「このような監獄世界で、語ることなく影響を及ぼして帰っていくとは、あの一人の人がどれほど偉大な力をもっていたのだろうか！」と話し、それが話題になったというのです。それは、私が話したものではありません。法務省の調査官たちが行つて調べ、私に報告したのです。私は監獄に行つても、どこに行つても、愛を中心として何かを残そうと身もだえしています。そのようなつらい人生行路を歩いていくというのです。そのような世界の歴史的な代表者がお父様です。

11、ダンベリー刑務所にいる時、私は昼食時にもよく仕事をしたりしました。そのように過ごしているので、刑務所の炊事場の責任者が私の所に来て、「もう昼食の時間ですから、早く食事をしてください」と声をかけてくれました。人は、そういうものなのです。私が昼食時間や朝食時間を逃してしまうのではないかと、私のところに来ては促して食事をさせてくれ、自分の物をよく分けてくれたりしました。人の良心は監獄でも同じです。そのように生きれば、監獄に行つても友達ができ、私を擁護する人が現れるというのです。皆さんは、このことを忘れてはいけません。これは最も貴い話です。

天からそのように受け取ったので、受けたとおりに、その伝統を伝授しなければならないのです。他のために生きようとする人は滅びません。そのようにして、滅びの道に進めば、宇宙が保護します。死の道に進めば、反対に命を奪おうとした人が死ぬのです。うまくいかないように思え、滅びるように思え、消えてしまうように思えるのですが、生き残り、栄え、発展するというのです。反対なのです。それは、神様が保護するからです。宇宙が保護するからなのです。